



## 1.概要

篠山城下町の特徴は、「町人地」と「武家地」が明確に区分され現在も建築形態として色濃く残り、「町人地」である魚屋町旧今村住宅の町家はその代表的なものです。

篠山の「町人地」の町家の特徴は、妻入りの摂丹型と呼ばれる通り、「通り土間の片土間三間取り」形式に京町家の影響を受けた平入り町家が混在した町並みを形成しています。

このため京町家のように瓦屋根のスカイラインが一律ではなく変化に富んでいる一方で、表通りに面した1階の軒屋根の下屋はほぼ高さが揃い、統一感のある下屋が連続し、それぞれの家屋の個性的意匠によって玄関や店先を特徴づけていることも大きな魅力となっています。

また、町家の魅力は、木造や土壁といった人体に優しい呼吸する素材できているとともに間取りやしつらえを通して、住まい手の暮らしぶりを伝えている点です。

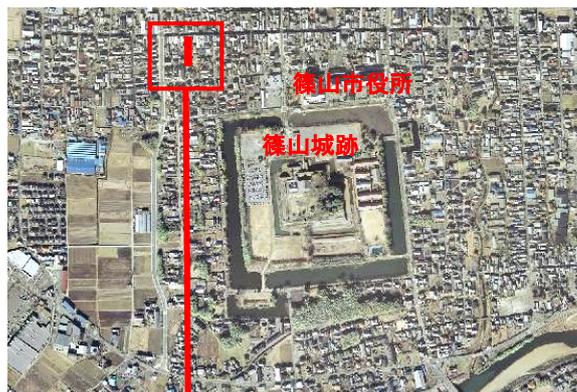
土間や縁側といった多用途でウチとソトを結ぶあいまいな空間が多く、クーラーや電気設備がない時代に家全体の構成と暮らし方の工夫や演出で公私を区分しながら、自然と対話する日本の生活文化を育んできました。

篠山城下町では妻入りが主流のため間口は3間～4間が多いですが、現在篠山市所有物件の旧今村住宅は、平入りとして2軒分の敷地に形成されており、ムシコ窓の伝統意匠を継承しつつも「つし二階」でないことから、明治以降に建設されたものであると思われます。

かつては酒造業が営まれ、間取りは、「通り土間の片土間三間取り」の形式で、ウナギの寝床と形容される細長い短冊敷地に採光と通風を兼ねた中庭と、裏庭の菜園を有する篠山町家の伝統的な町家の形式が色濃く残っています。

主屋、作業場、離れ、蔵、といった主要な建物と、水路をはさんでさらに南側にある広い空地（雑種地）にも酒蔵があったとのことで、離れは昭和16年の増築となっています。

篠山城下町に残る伝統的な町並みの佇まいと町家は、私たちが暮らしを通して次代へ継承していくものは何かを静かに物語ってくれる資産であり、伝統的な町家の形式や構造を継承していくことが、新しい暮らし方を創造していく上で欠くことのできないもので、先人の住まい手の暮らしぶりを学びながら、次代へ残していくことが、篠山の生活文化の継承につながると考えています。



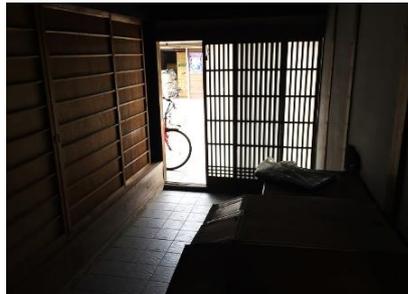
## 2.施設概要

- (1)施設名 篠山城下町家（旧今村住宅）  
(2)所在地 兵庫県篠山市魚屋町 15 番 1 他  
(3)敷地面積 1,269.26 m<sup>2</sup>（宅地 836.26 m<sup>2</sup>、雑種地 433.00 m<sup>2</sup>）  
(4)建物床面積 436.82 m<sup>2</sup>（居宅 木造かわらぶき 2 階建 1 階 306.81 m<sup>2</sup>、2 階 36.77 m<sup>2</sup>）  
（居宅 木造かわらぶき平屋建 53.57 m<sup>2</sup>）  
（倉庫 土蔵造かわらぶき 2 階建 1 階 20.00 m<sup>2</sup>、2 階 20.00 m<sup>2</sup>）  
(5)その他 上・下水道接続済

## 3.現況写真



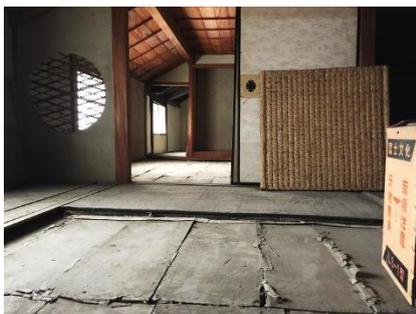
主屋外観



主屋玄関



主屋和室



主屋二階



主屋廊下



主屋作業場



主屋作業場天井



中庭



離れ平屋建外観



離れ・土蔵



離れ和室



空地（雑種地）

